

11月29日（月）のスポーツ基本計画部会における出席委員の主な指摘事項

【スポーツの価値】

- スポーツの価値として「楽しさ」を示しているのはよいことであるが、「多様な主体におけるスポーツの機会の創出」等における数値目標が、回数等だけになっており、「楽しさ」を計るような数値目標の設定がなされていない。
- 「スポーツを好きな人をつくる」という観点がスポーツ実施率向上にも重要になるのではないか。
- 「～のためのスポーツ」ということが強調されているが、スポーツの本質的な価値は「自発性」「喜び」に重点が置かれるべきではないか。
- 東京大会については、開催にあたって良かったことだけでなく、様々な開催に向けて意見が寄せられたことも踏まえて、スポーツ団体・界としてどのようにあの大会を捉えたうえで今後につなげていくのかという点も意識した方がよい。
- 東京大会の評価に踏み込むのは、様々な議論があるし、また時間が経てば色々な意見が出て来るとも想定されるため、非常に難しいのではないか。第3期計画で世論について統括するのは難しいし、やるべきではないと思うため、それよりも、東京大会を経て、「スポーツ」がいかに関々の「楽しみ」や様々な事柄の触媒として活用されるのかについてに眼を置いて記載することが必要ではないか。
- 「ささえる」の説明をしている部分については、ボランティアのような非日常的な場での存在だけでなく、日常的にグラスルーツでスポーツを支えている指導者等もいるため、その旨を記載してほしい。

【第3期計画の新たな三つの視点】

- 新視点①の「つくる／はぐくむ」は、他の2つの新視点にも関わるものであるため、その旨を記載した方がよい。

【多様なスポーツの機会創出】

- 「ユニバーサルスポーツ」は多義なので、注釈を設けた方がいい。
- 運動部活動改革については、その位置づけを慎重に検討した方がよい。
- 運動部活動の地域移行については、「着実に進める」というのが大きな第一歩になったと思われる。
- 新体力テスト C 以上という数値目標は達成が困難ではないか。新体力テストは、今の子供たちが日常的に実施しない動きをテストするものになっている。
- 運動部活動でのあらゆる指導者への資格取得の義務付けに言及してほしい。
- 経済・地域格差に起因する、運動部活動の地域移行による、子供の運動機会喪失の防止への対応を記載してほしい。
- 子供への指導にあたっては「フィジカル・リテラシー」の考えに基づく必要があることを明記してほしい。
- 障害をもった児童の体育の見学をゼロにする旨を関連施策や施策目標等において記載してほしい。

- 特別支援学校の運動部活動にも言及をしてほしい。

【スポーツ DX】

- **Society5.0** における **DX** については、デジタル化するというだけではなく、ビッグデータを活用してタイムリーに解析等ができ、フィードバックしていくということが重要。それが地域スポーツ振興やトップアスリート強化、ビジネス展開等に関わってくる。そのため、もう少しビッグデータ活用の点を体制も含めてより強調すべき。「検討する」という形でもよい。
- **DX** は、トップアスリートだけではなく、子供への指導にも活用すべき。
- 個人情報の問題等があるため慎重に検討すべき。

【国際競技力の向上】

- 競技力の記載については、今回の東京大会で新競技として追加された「空手」「クライミング」「ローラースポーツ」等の多種多様な競技・種目についてもフォローした記載にしてほしい。
- トップアスリートの知見が引退後、どのように社会においてセカンドキャリアも含めて活かされていくのかという視点も入れてほしい。
- 女性アスリートの医科学的な課題・健康課題への対応は、相談窓口設置ではなく、スクリーニングの構築が重要。もう少し具体的に支援の体制の構築等を文言に入れてほしい。

【スポーツの国際交流・国際貢献】

- 札幌オリンピック・パラリンピックについての招致に向けた動きについてもより記載をすべき。
- 大規模競技大会だけではなく、競技別大会の招致についても記載してほしい。

【スポーツによる健康増進】

- 健康増進の促進を図るにあたって連携する先は、現在記載の医療・介護等だけでなく、障害者スポーツ関係者も明示すべき。

【スポーツの成長産業化】

- 地域発のプロスポーツチームや地域企業等も関わり、新たな地域ビジネスを作っていくといったことも追記してほしい。

【スポーツによる地方創生、まちづくり】

- 「ツーリズム」の記載が少ないような印象を受けるため、より記載を充実してほしい。

【スポーツを通じた共生社会の実現】

- 「ともに」「つくる」を新しい視点に入れていることを踏まえても、障害のある人もない人も一緒にスポーツを実施していくということを具体的施策として位置付けるべき。
- 障害を持った方が体育館の利用を断られてしまうことをゼロにするという旨を関連施策や施策目標に記載してほしい。

- 障害を持った方のなかからリーダーシップをとっていけるような人材を育成するという旨を入れてほしい。

【スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化】

- ・ 競技団体が自発的に横連携をしていくべきという旨を入れてほしい。

【スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」】

- 「地域のスポーツ環境の構築」における環境構築の連携主体として障害者スポーツ関係者を明示すべき。
- 人材育成については、年齢・障害の有無等に関わらず指導できる人材を育成するという文言を入れてほしい。
- 指導者の数等の数値目標の設定をすべき。

【スポーツ・インテグリティの確保】

- ドーピング防止活動については、国際基準を守ることがアスリートの権利を守ることにもつながるという前提を総論的なところに記載すべき。
- ドーピングの検査・分析体制を東京大会後も維持する旨を記載すべき。

【構成について】

- 第2章と第4章の連続性を出すために、第3章の東京大会のスポーツレガシーについては別のところに持って行った方がよい。
- 東京大会のスポーツレガシーについては第3章のままでよいが、ここに位置付けられる趣旨等を冒頭に明示すべき。
- 第3章は「国際競技力の向上」ではなく「共生社会の実現、スポーツ参画の促進」がまず(1)として掲げられるべきではないか。

【計画の広報・周知展開・実効性確保】

- 計画の本体とは別に、計画を実行していくための推進のプロジェクトチームを設置したり、自治体等の実施主体が参照するうえで分かりやすい広報物を作成すべき。
- 第2期計画の数値目標の進捗等を分析をしたうえで、第3期における数値目標をどのように設定するのかの道筋を示す必要がある。